

引用・参考文献の書き方

[Step 1]. まず自分の研究分野の引用ルールを確認します。

卒業論文や学術論文で先行研究を参照・引用する場合には、その部分が引用したものであることが分かるよう、「」で括弧など、本文と分けて表示する必要があります。また、どの情報のどの部分を参考・引用したのか、必ず論文中に出典を明示しなければなりません。既に発表された先行研究を、その旨明示せず無断で使用するのは剽窃行為となります。厳に慎んでください。

先行研究を引用・参考にした場合に、どのようなルールに基づいて出典を明示するのかは、分野によって異なります。記号の付け方から記載の順番まで、対応は様々です。

一つの方法としては、その分野の中心となる学会誌に掲載されている投稿規程に準拠するやり方があります。また、卒業論文であれば、ゼミの先生や学科で配布する「卒業論文の書き方」などで指示されている場合もあります。指示のある場合は、その方式に従って記載しましょう。

以下の[Step. 2]および[Step. 3]は、文献の引用方法の一例になります。この他英語論文には、英語論文独特の引用ルールが存在します。詳しい内容は、レポートや論文の書き方に関する資料の記載などをご参照ください。

[Step 2]. 引用方法の一例（SIST（科学技術情報流通技術基準）基準）。

以下の方法は、科学技術振興機構が作成したSISTに基づく引用の方法です。ご参照ください。

2-a. 引用・参考文献（図書）表示の基本例

<形式>

著者名. 書名. 版表示, 出版地, 出版者, 出版年, 総ページ数 p., (シリーズ名, シリーズ番号), ISBN.

※版表示は初版の場合原則省略。出版地も省略するケースが多い。

<記載例>

立花隆. ぼくはこんな本を読んできた : 立花式読書論, 読書術, 書齋論. 文藝春秋, 1999, 375p. 416351080X.

2-b. 引用・参考文献（雑誌）表示の基本例

<形式>

著者名. 論文名. 掲載誌名, 出版(刊)年, 巻数, 号数, p. 始めのページ - 終りのページ.

※「巻数, 号数,」は「巻数(号数),」の簡略表記でも可

<記載例>

大江健三郎. 知識人となるために. すばる. 2007, 29(8), p. 24-42.

2-c. 引用・参考文献（オンラインデータベース・電子ジャーナル）表示の基本例

<形式>

著者名. 論文名. 誌名, 出版年, 巻数, 号数, p. 始めのページ - 終りのページ. (掲載メディア), URL, (アクセス日)

※「巻数, 号数,」は「巻数(号数),」の簡略表記でも可

<記載例>

佐古丞. 日本の安全保障を考える: 中国問題を手がかりに. 法政論叢, 2011, 48(1), p. 221 - 226. (online), <http://ci.nii.ac.jp/naid/110008897540>, (参照 2013-08-02)

引用・参考文献の書き方

2-d. 引用・参考文献（Web サイト中の記事）表示の基本例

<形式>

著者名. “Web ページのタイトル”. Web サイトの名称. 更新日付. URL, (アクセス日)

<記載例>

中央教育審議会. “第2期教育振興基本計画について（答申）”. 文部科学省. 2013-04-25.

http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2013/05/08/1334381_02_2.pdf, (参照 2013-08-02)

[Step 3]. その他一般的に見られる引用例。

主に人文科学系（特に歴史）で使われる手法として、図書や雑誌のタイトルを“『』”で囲み、論文や章のタイトルを“「」”で囲む方法があります。この場合、記載順としては右記のような形式を取るケースが多いです。あくまで一例としてご参照ください。

右の例は縦書きでの記載ですが、英語文献からの引用は横書きのまま記載します（書式も英語文献の記載方法に倣います）。また、縦書きでは数字を漢数字で記載していますが、同じ書式で横書き記載する場合は、アラビア数字に変更します。

（形式（二例））

執筆者名 「論文（章）名」（図書の場合、編者等があれば記載） 『図書

（雑誌）名』 巻号（雑誌またはシリーズ図書ののみ） 掲載頁 出版者

（図書ののみ） 出版年（雑誌のみ月も）

（記載例1（雑誌論文））

池内敏 「竹島は日本固有の領土である」論 『歴史評論』 第七八五号

七九—九三頁 二〇一五年九月

（記載例2（図書（章）））

神山恒雄 「井上財政から大隈財政への転換」 高村直助編著 『明治前期の

日本経済』 日本経済評論社 二〇〇四年

（縦書きの英語文献記載例（雑誌論文） ※書式が多少異なります）

Basu, K. and P. H. Van (1998) "The Economics of Child Labor", *American*

Economic Review 88(3): 412-27.

※英文からの引用は、横書きのまま記載します。

※横書き論文に記載の際は、数字をアラビア数字に変更（記載順は同じ）。

[Step 4]. 本文と引用・参考文献との関連づけ

論文の本文中で、先行研究の内容を引用する（に言及する）場合は、必ず対応関係が分かるよう文献リストと引用（言及）箇所を一連の番号で関連づけます。一般的に、引用文献リストの一連番号は、各章の範囲内で連番付与することが多いですが、これも各分野によって異なります。

以下は一般的な引用明示の例です。ご参照ください。

<本文>

この事件について、～との指摘がある。1)（中略）この問題を、～と結論づけている。2)

<引用文献リスト（SIST方式での記載例）>

1) 立花隆. ぼくはこんな本を読んできた : 立花式読書論, 読書術, 書齋論. 文藝春秋, 1999, 375p. 416351080X.

2) 大江健三郎. 知識人となるために. すばる. 2007, 29 (8), p. 24-42.

以上